

[野菜部門]

12. 促成ナス「千両」の日焼け果の発生は台木品種及び根域の大きさに影響される

[要約]

「千両」の日焼け果の発生は「トレロ」台で「台太郎」台よりも少なく、根域制限すると増加する。台木品種の影響の原因として、「トレロ」台は根域が深く、根数も多いため、地上部への水の供給量が多いことが考えられる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 野菜・花研究室

[連絡先] 電話 086-955-0277

[分類] 情報

[背景・ねらい]

ナス「千両」の促成栽培において、早春から初夏にかけて収穫が近い果実の表皮に陥没あるいは褐変の障害が現れる「日焼け」が発生し問題となっている。日焼け果は、果実における蒸散量に比べて、根からの水の供給量が不足し、表皮の細胞が脱水するために発生すると考えられている。そこで、台木品種、及び根域制限が日焼け果の発生に及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 3月から5月にかけて、主に「ハの字型」の日焼け果が多く認められ（図1）、日焼け果率は「トレロ」台で「台太郎」台よりも低く、根域制限をすると増加する（図2）。
2. 根数、あるいは茎におけるいっぴつ液の量が多いほど、日焼け果が少なくなる傾向がある（図3）。
3. 「トレロ」台は「台太郎」台に比べて、根域が深く（図4）、根数、いっぴつ液の量が多い（図3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 日焼け果の発生は、日の出後の気温上昇時に発生する果面の結露によって助長されるので、やや早めに換気して結露を除去する。
2. 「トレロ」台では青枯病のIV群菌に対する抵抗性が弱いことから、「トレロ」台で青枯病の十分な発生抑制効果が得られない圃場では、「台太郎」台を使用する。

[具体的データ]



図1 「ハの字型」日焼け果

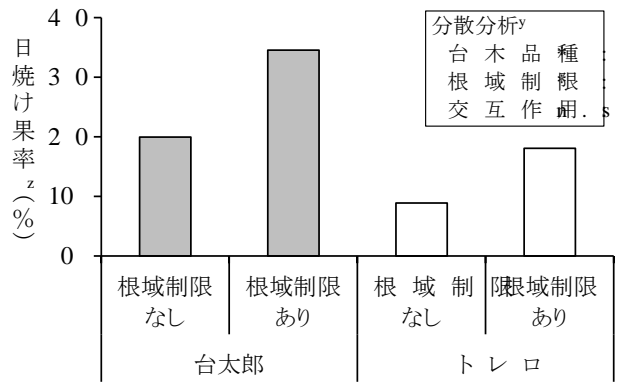


図2 台木品種及び根域制限が日焼け果率に及ぼす影響
 z 日焼け果率 = 日焼け果数 / 収穫果数 × 100 (%)
 y^* は5%水準で影響が有意であることを示す

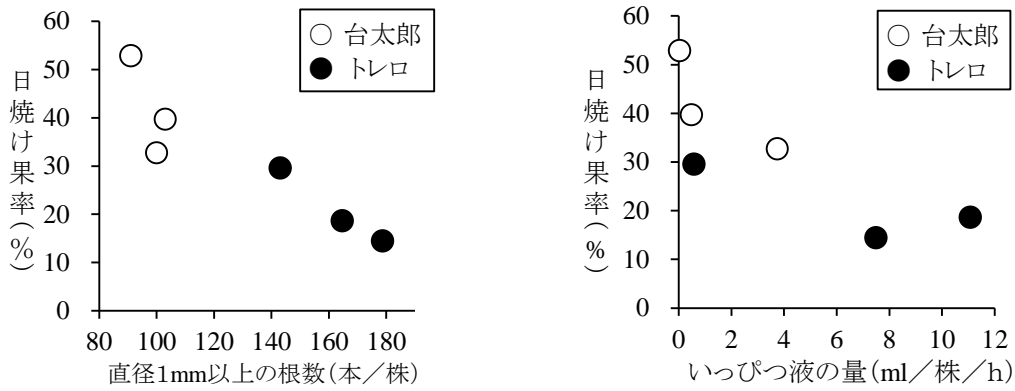


図3 根数及び茎におけるいっぴつ液の量と日焼け果率の関係



図4 「トレロ」台及び「台太郎」台の栽培終了時の根の様子
 注) 左が「トレロ」台、右が「台太郎」台

[その他]

研究課題名：促成ナスの日焼け果防止技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2013～2015年度

研究担当者：佐野大樹、飛川光治

関連情報等：佐野、飛川（2015）近畿中国四国農研、26: 33-38